岡見小学校だより
波響（はきょう）

学校教育目標
人権尊重を基盤として
これからの時代を生き抜く
心優しくたくましい
岡見っ子の育成

めざす学校像
ほっ♡わくわくよしっ！

令和６年
９月２０日
No.９
（通算No.714）
校長　細川寿俊

開校 150 周年記念その 4　児童数の推移

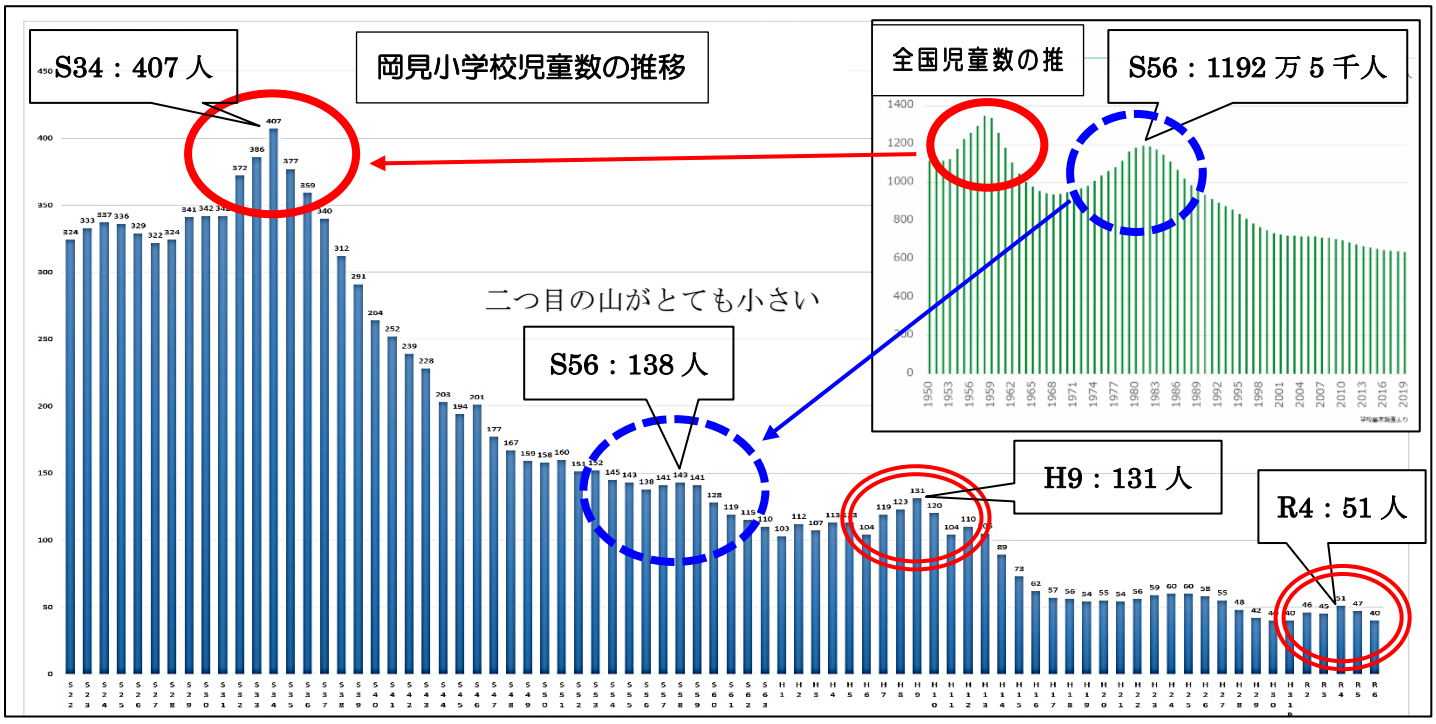
昭和２２年以降の児童数の推移をグラフ化してみました。よく見るとその当時の社会情勢や地域の様子が想像できるような気がしました。
（あくまで私の勝手な推論ですので、その点はご容赦ください。）

児童数のピーク

S34 年をピークとする山は**“第１次ベビーブーム”**によるものと思われます。なんと 407 人もの児童数を誇りました。
ちなみに卒業生のピークも S34 の８２名だと思います。

火力発電所１号機・２号機工事

H9 をピークとする山は、おそらく**三隅火力発電所 1 号機の建設**にかかわるものだと思います。工事が始まった H7 から児童数が増加し、運転開始となった H10 からは減少しています。R4 年の小さな山も、おそらく２号機の関係ではないかと推測しています。

二つ目の山がとても小さい

全国児童数の推移（グラフ）をみると、はっきりとした大きな山が二つあります。一つ目の山は第１次ベビーブーム、二つ目の山は第１次ベビーブームの時に生まれた方々が出産適齢期を迎えた**“第２次ベビーブーム”**によるものです。（それぞれ「団塊の世代」「団塊ジュニア」とも言われる世代です。）
しかし岡見小学校の児童数のグラフでは**二つ目の山がとても小さい**ことが分かります。もし、全国の児童数と同じような推移をたどれば、S58 頃には児童数 350 人くらいになっていてもおかしくありません。島根県の児童数の推移も岡見小と同じように二つ目の山がとても小さくなっていました。
「増えたはずの子供たちはどこに行ったんだろう？」と思い、東京都と大阪府の児童数推移を調べてみました。なんと、**東京都では二つ目の山が一つ目の山よりも高く**なっていました。**大阪府はさらに極端で、二つ目の山が一つ目の山の 1.5 倍ほどの高さ**になっていました。
昭和 30 年代、40 年代は“高度経済成長期”と言われる時期です。第１次ベビーブーム世代の若者が都市部に移り住んでいったことがうかがえるものでした。今現在、人口の一極集中が問題になっていますが、昭和 30 年代頃から始まっていたんだと実感する内容でした。